

**P-249 経膈超音波断層法による着床期
内膜の評価 — TV-Echo による内膜画像診断
は内膜組織診に代用し得るか —**

慈恵医大、大宮総合病院*

渡辺直生、楠原浩二、松本和紀、落合和彦
福島和夫*、久慈直志*、寺島芳輝

〔目的〕経膈超音波断層法(TV-Echo)による子宮
内膜の観察、特にその厚さの測定が不妊患者の着
床環境を評価する方法として有用か否かを検討し
た。〔方法〕排卵性不妊患者21例に対し①卵胞中
期、排卵期、着床期にLH、FSH、 E_2 、 P_4 を定量し、
②各時期にTV-Echo で内膜厚を計測し、③着床期
に内膜生検より日付診を行ない、TV-Echo による
内膜厚と着床期内膜日付診との関連性を検討した。

〔成績〕①着床期の日付診が一致した(in phase)
16例(A群)の内膜厚は $12.4 \pm 2.1\text{mm}$ 、遅延した
(out of phase)の5例(B群)は $10.0 \pm 2.1\text{mm}$ で、B
群の内膜厚は菲薄な傾向($P < 0.05$)を示した。また
11mm以上の13例中12例(92.3%)が一致型を、11mm
未満の8例中4例(50.0%)が遅延型であった。
またA群は $E_2: 239.7 \pm 87.6\text{pg/ml}$ 、 $P_4: 11.9 \pm 3.2\text{ng/ml}$ 、
B群は $E_2: 273.5 \pm 63.2\text{pg/ml}$ 、 $P_4: 16.3 \pm 5.7$
 ng/ml と E_2 、 P_4 とも両群間に差がなかった。②排
卵期の内膜厚はA群 $11.5 \pm 2.9\text{mm}$ 、B群 $7.6 \pm 1.6\text{mm}$ で、
B群は有意に($0.02 < p < 0.05$)菲薄であった。同時
期の E_2 はA群は $332.7 \pm 160.6\text{pg/ml}$ 、B群 $472.2 \pm$
 197.9pg/ml とB群の E_2 はむしろ高値を示した。

〔結論〕①着床期のTV-Echo による内膜厚と日付
診とはよく相関し、特に内膜厚が11mm以上では一
致型が、11mm未満では遅延型が多いといえた。②
遅延型では排卵期にすでに内膜厚が菲薄であるこ
とより着床期の内膜異常は増殖期の増殖不全に基
づくことが示唆された。③遅延型は一致型と比較
し、排卵期 E_2 、着床期 E_2 、 P_4 のいずれも低値では
ないことより、遅延型内膜の発生原因はホルモン分
泌低下によるのではなく、反応性の不全と考えら
れた。以上よりTV-Echo による着床期内膜厚の計
測は着床期内膜を評価する上で有用と考えられた。

**P-250 経膈超音波断層法による卵胞最大径と
子宮内膜厚の月経周期内変動の検討**

近畿大

赤井正彦、石川元春、高瀬規久也、三橋洋治、
新屋敷康、星合 昊、野田起一郎

〔目的〕経膈超音波断層法により卵胞最大径と子
宮内膜厚・血清estradiol値(E_2)・Progesterone値
(P)の月経周期内変動と各々の相関を検討する。

〔方法〕自然周期(NC群)、clomiphene周期(CC群)
を対象とした。月経周期は基礎体温上で低温相最
終日を D_0 とし、卵胞期を D_{-n} 、黄体期を D_{+n} と表現
した。さらに D_0 を子宮内膜日付診(2日以内のずれ：
EB補正群)、LHカラー(陽性後24時間目を D_0 ：
LH補正群)で補正し検討した。子宮内膜厚は2層
を併せて測定し、 E_2 ・Pの測定はRIA法によった。

〔成績〕卵胞最大径(mm)は、NC群で、 $D_{-12}: 7.1$
 ± 1.3 (mean $\pm$ SD), $D_{-2}: 19.6 \pm 5$, $D_0: 21.6 \pm 3.7$
であった。補正群は、EB補正群で $D_0: 21 \pm 2.5$,
LH補正群で $D_0: 23 \pm 2.8$ でありNC群と有意差はな
かった。CC群の卵胞最大径は、 $D_{-12}: 7.7 \pm 1.9$,
 $D_{-2}: 24 \pm 5.2$, $D_0: 28 \pm 5$ であった。LH補正群は
 $D_0: 30 \pm 5.5$ で、CC群と有意差はなかった。子宮内
膜厚(mm)は、NC群で $D_{-12}: 6 \pm 2.2$, $D_{-2}: 9.4 \pm 3$,
 $D_0: 10.9 \pm 2.7$, $D_{+11}: 6.5 \pm 1$ であった。EB補正群
で $D_0: 10.8 \pm 0.8$, LH補正群で $D_0: 12.3 \pm 2.5$ であ
り、子宮内膜厚も有意差はなかった。CC群の子宮
内膜厚は、 $D_{-12}: 5.2 \pm 1.8$, $D_{-2}: 10 \pm 2.6$, $D_0:$
 11.4 ± 3.4 , $D_{+11}: 9.4 \pm 1.9$ であり、LH補正群は $D_0:$
 10.6 ± 1.5 で有意差はなかった。卵胞最大径は、NC
群とCC群共に $D_{-12} \sim D_{-1}$ で、 E_2 と正の相関($P < 0.01$)
を認めた。また、NC群、CC群共に黄体期子宮内膜
厚と E_2 ・P・ E_2/P と相関は認められなかった。
〔結論〕①卵胞最大径と子宮内膜厚は、卵胞期の
み E_2 と相関し、黄体期に相関はなかった。②卵胞
最大径は、NC群で約21mm, CC群で約28mmで排卵に
到った。③子宮内膜厚は、両群とも約10mmで排卵
と考えられた。